

## —トウキ—



基原植物：トウキ *Angelica acutiloba* Kitagawa 又は  
ホッカイトウキ *A.acutiloba* var. *sugiyamae* Hikino

科名：セリ科

形態学的特徴：葉は互生で2~3回3出羽状複葉，葉柄が鞘となり茎を抱く．複散形花序

薬用部位：根（通例、湯通ししたものを乾燥）

用途：補血，強壯，鎮痛，鎮静を目標に冷え症，貧血，血行障害などの各種の婦人科疾患に  
広く用いられる．

処方：当帰芍薬散，加味逍遥散，補中益气湯，温経湯

成分：精油 0.1~0.3 % クマリン誘導体：scopoletin, umbelliferone, bergapten フタリ  
ド類：ligustilide, butylidenephthalide, butylphthalide ポリアセチレン化合物：  
falcarinol, falcarindiol, falcarinolone

薬効・薬理：メタノールエキスは家兎十二指腸内投与により子宮収縮運動を亢進する．

ligustilide, butylidenephthalide は抗アセチルコリン作用を示す．ligustilide  
には抗喘息，鎮痙作用，falcarindiol などのポリアセチレン化合物には抗侵害  
作用（鎮静）が，また熱水抽出物の多糖体画分にはマウスのエールリッヒ腹水  
癌に対して抗腫瘍活性が認められている．

参考文献：廣川書店 天然医薬資源学 [第5班] 竹田忠紘，高橋邦夫，斉藤和季，小林義典  
廣川書店 最新 薬用植物学 奥田拓男

2018.7.6 4YP TI